

対 談 一 周 回 っ て 最 先 端

日時：2023年4月25日

場所：法医学講座集会室（基礎医学棟二階）



創設期の雷鳴祭実行委員・6期生
法医学講座 特任教授
齋藤 一之

学友会文化部長
解剖学講座 主任教授
徳田 信子

「当時はみんな暇だったからね」

徳田 本日は、お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。今日は、雷鳴祭というものがどうしてできたのか、また、今の時代に雷鳴祭がもたらすことについて、思い出などを中心に語っていただきたいと思います。それでは、齋藤先生よろしく願いいたします。

齋藤 あの頃の大学付近は、本当になんにもなくてですね、私が卒業してやっとセブンイレブンができたぐらいでした。今と違って、携帯電話はもちろん、テレビもみんなが持っているものではなく、誰か持っている人の家に行ってみんなで見ていたような感じでしたね。だから、特に部活と勉強以外やることなく、雷鳴祭ができたのでしょう（笑）

徳田 いえいえ（笑）でも、このような文化的な活動があるのは、とても珍しいことで、素晴らしいことだと思います。

齋藤 私は、獨協高校出身なのですが、今から思えば、獨協学園全体に、教養主義的な雰囲気があったのかも知れません。獨協医大を作ったときも、このキャンパスをご覧になればわかると思いますが、すごくゆったりと設計されていて、当時の関係者の大学というものへの考え方が滲み出ていると思います。

徳田 確かに、私もこの大学にきたときそう思いました。大谷石や立派な木々に感動いたしました。

齋藤 そうですね（笑）立派な庭石は、ここの創設者である関湊さんが、自費で買って寄付したものらしいです。こ

う 50 年たってみると、木々も立派になり、全体に風格が出ていますね。高いビルでも 1 年もあれば建ちますが、樹木に風格が滲み出るまでには長い年月がかかるのですね。

徳田 みんな意外と知らないですが、いろいろなところに工夫がされていて、素晴らしいキャンパスだと思います。

齋藤 やはり、当時の設計に関わった人たちのスケールでしょうかね。50 年後、100 年後を見据えた設計をしています。久しぶりに母校に帰ってきたとき、学生時代には細かった庭木が、風格のある大木になっているのを見て、そう思いました。人を造るということはこういうことなんだと教わったような気がします。



大学設立時の銀杏並木



現在の銀杏並木

徳田 せっかくこのようなキャンパスにいるのだから、学生さんもぜひ探索してもらいたいですね！ そのような心の広い雰囲気が、雷鳴祭を創設する流れを作ったのでしょうか。

齋藤 私が 1 年生の時に、馬場栄治さんをはじめとする先輩たちが、第 1 回雷鳴祭を立ち上げました。当時の学生には、文化的な活動に一生懸命な人が多かったし、先生方も理解がありました。事務の方もそういう活動は積極的に後押ししてくださいました。

徳田 高校の文化祭のようなイメージですかね。

齋藤 それに近いと思います。獨医祭は、獨協大学の文化祭をモデルに作っているのですが、雷鳴祭は、文化部が好みに活動を発表する形で、学内向けの発表会のような感じですね。それで、よそから壬生の地に来てみると、この時期、凄まじい雷雨にびっくりしますよね（笑）「雷鳴」という名前はごく自然についたのです。

徳田 それにしても、雷鳴祭という文化的な活動を創設したということが、本当にすごいと思います。

齋藤 当時はみんな暇だったからね（笑）こういうことでもしないと、本当にやる事がなかったんですよ。何かしなきゃという感じもありましたし、都会と違って刺激も少なかったですし。

「暇というのはすごい大事」

徳田 でも、暇で文化的活動に精を出すところが、なかなか素敵だと思います。

齋藤 暇というのはすごい大事なことですよね。人間、暇がないと精神的にやられてしまいます。

徳田 それ思います。なんだか、暇というのは、心の余裕に繋がりますよね。

齋藤 自分を見つめ、芸術や学問を深めるには、暇でないとね。そもそもスクール (school) は、ギリシャ語の schole (暇) からきていると聞いたことがあります。雷鳴祭というのは、当時だったからこそ思いついたアイデアだったのかもしれませんが。今の学生は、スマホがあるから、本当の意味での暇はないのかもしれませんがね。

徳田 本当に、スマホの影響力というのは凄まじいものですよ。

齋藤 ええ、ものすごい影響力です。講義中にスマホを触っている人がいますが、触っているのはもちろん、触っていなくても、机の上に置いているだけで、先生の話の情報を収集する力は落ちてしまうそうです。スマホがなんでも教えてくれると、脳が無意識にそう思って省力化していると。

徳田 本当に最近が多いですね (笑)

齋藤 人間が成長するためには、失敗がないといけません。結果ではなく、プロセスが大事なのです。スマホはそのような機会を奪っている気がします。

徳田 その通りで、インターネットというのは、知りたい結果が一番上に出来るから、悩むプロセスが全カットされてしまいますよね。

齋藤 その悩むプロセスが、多ければ多いほどいいんですけど (笑) 本当の意味での暇というのは、悩むプロセスにとって必要不可欠なものです。今の時代には、その機会がほとんどないと思います。

徳田 将来医療に携わる上で、そのような機会はたくさん経験しておいた方が良いでしょう。

齋藤 学生のうちに、たくさん悩んで失敗するのが良いと思います。勉強でもそうです。基礎医学というのは、臨床医学を理解する上でのプロセス、基礎体力になります。CBT や国家試験にただ合格するだけなら、過去問をやり込んだり、覚えるものだけ覚えればいいのですが、それではウィキペディアで病名を調べた人と同じで、本質には触れられません。医学部というところで医学を学んでる意味はないと思います。

徳田 その程度なら、AI でできてしま
いますね。今は、AI がすごく発達して
きていて、人間の能力を超える部分も
多いですが、人間でなければできない
部分というのが、医療界には多くある
と思います。

齋藤 解剖学実習などは、まさに人間
にしかできないことですよね。元通り
には戻せない環境の中で、悩みながら
緊張感を持って学びますから。AI には
できないことです。

徳田 その通りです。医療は、試験に
受かる知識だけでできることではあり
ませんし、医学に関係のない教養も身
につけなければ、患者さんと接するの
はかなり厳しいです。心に余裕がなけ
ればできないことです。

「誰が読むんじゃー！」

齋藤 雷鳴誌の第2号などをみると、
医学に全く関係のない内容が多くあり
ますね。「溪流釣りのテクニック」や
「大井川鉄道のC11を追って」などマ
ニアックなものまであります(笑)

徳田 すごい... 「国鉄の新運賃体系
について」なども、誰が読むんじゃ
ー！って感じですけど、これがまたい
いですね(笑)

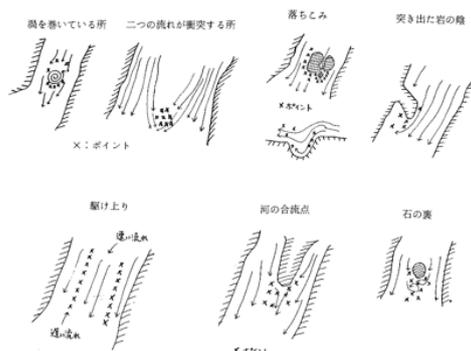
齋藤 そうでしょ(笑) 一般原稿な
どもあって、楽しい雑誌ですね。

溪流釣りのテクニック

フィッシング・クラブ

ヤマメ、イワナ釣りの楽しみは、何と言っても
渓流と云う自然の風景の中に自分と云うものを投
入出来る所にその魅力がある事です。つまり自分
が主人公であり、それを花をそえてくれるのが、
ヤマメ、イワナ達なのです。源流から始まり、V
字谷の岩肌を離れ雑木林を白濁を立てながら流れる
渓流で、イワナは精であり、ヤマメ達は女王なの
です。その魅力に取りつかれた人たちは、今まで
で数える事の出来ないくらい多いのです。では、
どこにそんな魅力があるのでしょうか？ それは、
やった事のない人には、むずかしいかもしれませ
んが、あの美しい魚体を見ると、今までの苦労が

吹き飛んでしまうのです。野球だって経験のない
人には、感動が湧かないのと同じ事だと思えます。
では、なぜヤマメ、イワナ達が、ミステリアスな
のでしょうか。それは魚類の分類から言っても、一
番原始的であり、それだけに用心深くして人影でも
見るものなら決して釣れません。それだけに、い
かにして釣ってやろうかと苦心するわけです。そ
のテクニックについて、ここで少し話をして見
ようと思えます。第1には、いかに早くポイント
を発見するかです。その為には、魚の習性を見
逃す事は出来ません。季節、気温、水温、水色に
よって魚の居住が変化し、魚が左右されてしま
います。しかし一般的には、溝を巻いている所、
二つの流れが衝突する所、落ち込み、突き出た岩
の隙、駆け上り、川の曲点、石の裏側などです。
それそれについて図示してみよう。



-38-

大井川鉄道のC11を追って

鉄道研究会

今回、我々は現在日本で唯一の現役SL・C11型
蒸気機関車(通称Cのチョンチョン)を追ってみ
ました。さて、C11の紹介の前にこの機関車の走
っている大井川鉄道について御紹介しましょう。最
初に沿革です。大井川をめぐる鉄道は明治22年東
海道本線が開通し、明治31年には別川改修のため
大井川にSLが走り、同じ年島川に人車軌道が開
通しました。一方、大井川の水源は明治以後盛ん
となり、大正期にはプロペラ船を運行したが鉄道
の必要性にも迫られて、大正7年に大井川鉄道の
前、駿府鉄道が創立され静岡→千原間の鉄道建設を
計画、大正10年、コースを島田→千原に変更の免許
を受けました。大正11年には大井川鉄道と改名し、
次いでルートを金谷→千原に改めて起工し、昭和
2年6月より金谷→千原間の運転を始めました。SL
(蒸気機関車)はドイツ製のコッペル社Cタンク
No.5・No.6で客車は国鉄社下製の英語式マツ
箱客車を用いました。当時の大井川鉄道の目的の
1つは、南アルプス御料材の木材運搬でありまし
た。以後、トンネルと鉄橋の工事を経て昭和
6年12月1日、金谷→千原間39.5kmが全通しま
した。レールはドイツ製やアメリカ製のものを
使い、一部は今も現役に残っています。SLは昭和
4から6年にかけて日立川崎工場で新造されまし
た。この機関車は50t級のC12の前進的存在でし
たが牽引力はC12より大きいものでした。一方で、
昭和5年よりゼンリンカー(現在のディーゼルカー
の前身)を投入しスピードアップをはかりました。
昭和10年9月には、木材輸送に加え、ダム工事な
どの貨物が急増したのに対し、C12を新造し同
12年には国鉄と同型の100型蒸気機関車を多数新
造して全国へ派遣することで輸送力を増強させまし
た。又同11年にはキハ100を新造しました。しかし、
昭和15年頃から石油節約のため、キハをサハ化

(付随車化)してSLに牽引させました。戦時中
は輸送増に伴い、C11やC12などが国鉄から借
入使用されました。昭和19年には東海道本線のバ
イパスの使用のために大井川鉄道にD51が実験的
に走りまし。戦後の大井川鉄道は燃料不足によ
るSLの閉鎖と多客のために、乗客は貨車
へ乗るあり様でしたが、抜本策として昭和24年11
月、1500V電化が完成し、E10型電気機関車が主
力となり、SLは引退しました。昭和27年より井
川ダム建設のため井川線(市代→井川→望翠)が
着工され、多くの犠牲者を出したダム工事の末、昭
和29年9月に開通しました。昭和32年には毎週ダ
ム工事が始まり昭和34年には多数のセメント列
車が走りましたが、昭和36年、ダムが完成する一
方、観光客が増えたので、赤とクリーム色のツ
ートンカラーの本格的な客車が登場しました。昭和
39年、井川線沿線が大井川ダム公園となり周遊コ
ースに指定され、シーズンには10両編成の列車が
魚鷹員になる程の乗客となり、最近も増加を
続けています。そして、昭和45年に文化的保存の
ためにB6型2109号の動態保存を始め、1275号、
9600号、C11、C12などの保存も図りました。SL
の動態保存と共にマスコットが大井川鉄道が登場
することが多くなり、NHK「新坊っちゃん」
「鳩子の橋」など多数のテレビドラマや映画の場
面に登場しました。又一方で、昭和45年からレー
ルの強化、自動信号化、列車無線の設置を行ない、
スピードアップと運行の安全化をはかりました。
そして現在の大井川鉄道の姿があるわけです。
次に現在の大井川鉄道について御紹介しましよ
う。東海道本線の金谷駅を起点とし、大井川に沿っ
て山を縫うように走り家山を経て千原まで39.5
kmを結んでいます。本線は全線単線で列車本数は
その路線容量一杯の1日約70本です。列車はSL
急行「かわね路」を始め数本の急行と国鉄からの
直通列車が走っています。面白いことに、急行
の中には車庫内にジューズの自動販売機を積んでい
るものもあります。さて、路線の説明をしましよ

-31-

「雷鳴誌 第2号」より

徳田 ほんとだ！ 他の雷鳴誌を見ると、麻酔科の濱口先生や消化器内科の入澤先生の名前もありますね。眼科の妹尾先生の写真作品もある！

齋藤 妹尾先生は、獨協高校の同級生でもあります。写真が得意でしたね。

徳田 先生方の意外な一面を知ることができ、大変興味深いです。各部活の誌面発表が充実していて、数十年経って読んでも、楽しさがありますね！

齋藤 今もまだあるのかわかりませんが、私たちが学生の頃のタウン誌「びあ」など、雷鳴誌はそれに近いものだったのではないのでしょうか。当時はインターネットなどないですから、このような情報誌から情報を得るしかありませんでした。

徳田 懐かしい... 読みました。あれも時代ですね～

齋藤 雷鳴誌もきっと時代の流れと獨協医大の雰囲気歴史を物語っていますよ。それこそ、さっきの「国鉄の新運賃体系について」は、今ならインターネットで調べればでてきますから。今だったら、このような記事は誰も書かないでしょう。

徳田 確かに。当時と今での雷鳴誌というものへ考えも変わってきているのかも知れませんね。

齋藤 文化というものは精神的なもので、暇が少ない現在では、雷鳴誌を含め雷鳴祭に対して、今の学生は当時とは違う見方をしているのではないのでしょうか。

「一周回って最先端」

徳田 暇のないこの時代に、雷鳴祭という文化的活動をやるというのは、心の余裕を作る良い機会になるのかもしれないね。

齋藤 確かにそうですね。今の時代には、当時とは違った角度で、大切な機会になると思います。

徳田 原点回帰じゃないですけど、こう一周回って最先端なことかもしれません。昔の暇な時代の催し物が、今の時代では、足りない能力を補う最先端なやり方という（笑）

齋藤 上手くまとめて頂きました（笑）ぜひ、久しぶりに雷鳴祭を開催するこの機会に、色々試行錯誤してみたいです。

徳田 とても楽しみです！ 最後に、齋藤先生から今の学生さんへのメッセージをお願いいたします。

齋藤 今回、40年前の雷鳴誌をみて、懐かしくてジーンとききました。あの頃の学園の空気まで蘇ってきました。後輩たちには、後に懐かしいと思える日々を過ご

してほしいと思います。損得勘定抜きで、好きなこと、興味のあることに悩みながら没頭できるといいですね。自分のことを考えると、学生の時は、色々失敗して、人間の幅が広がる最後の機会だったかもしれません。学生時代が終わると、深くはなくても、横への幅が広がることは少なくなります。ぜひ、幅を広げてほしいですね。勉強もしっかりしなければですが（笑）

徳田 私も、獨協医大のこの素晴らしい伝統や雰囲気をつなげていければと思います。本日は、お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。